

今日のみことば

□ 5月6日(日) 列王記上 7章

ここにはソロモンが自分のために造った家、つまりエルサレムの宮殿について記されている。しかしこれも神の宮の大きな建築群の一つにすぎませんでした。

□ 5月7日(月) 列王記上 8章

神の宮の完成には七年かかった。そしてついに献堂式ができるころまですべてが整えられた。ソロモンの献堂の祈りは、彼が神に対して最高の理解も持っていたことが示されている。

□ 5月8日(火) 列王記上 9章

神は再びソロモンに語りかけられ、約束と警告を与えられる豊かな富があったにもかかわらず、ソロモンには貿易収支に問題がありました。

□ 5月9日(水) 列王記上 10章

ソロモンの知恵と名声の聞こえがあまりにも高かったので、一人の女王がエルサレムにやって来た。そこにはこれからの通商外交を通してソロモンの繁栄に影響を与えた。

□ 5月10日(木) 列王記上 11章

ソロモンは確かに偉大な王であった。神を愛した。しかし同時に「多くの外国の女」を愛した。そのため妻たちの悪影響が深まり、その晩年は真の神信仰から偶像礼拝へと転じた。

□ 5月11日(金) 列王記上 12章

ダビデの死後、王国は二分された。10部族は北王国を建てて「イスラエル」と称し、ユダとベニヤミンは南王国を建てて「ユダ」と称した。これは主が仕向けられたことであった。

□ 5月12日(土) 列王記上 13章

ソロモンに反逆したヤロブアムは、ソロモンの死後すぐにエジプトから帰り、支援者と北王国を建てたが、子牛礼拝を制定するなどによってアヒヤはヤロブアムの没落を宣言した。

ろ ぼ No. 1866
2018年 5月 6日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

箴言 3:5-6

心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。

私たちにはどのような問題をもしっかりとそれを乗り越える力が与えられている、と言うことを知っています。しかしそれが現実では様々ですが、しかしそれは確かであると私は信じています。神さまを信じているからです。「初めに神は天と地とを創造された」お方を信じています。

毎日、私たちの日々で安心できるものがあるか、と問われるならどう答えられますか。ソロモンは「わが子よ、わたしの教えを忘れるな。わたしの戒めを心に納めよ。そうすれば、命の年月、生涯の日々は増し／平和が与えられるであろう」(箴言3:1-2)と言います。実は不安の中で右往左往している私たちは本当の私ではない、神さまを信じていると言うなら、いかなる不安も、私たちにはないはず

ではありませんか。神さまはいつも私に最上のものをもって接して下さっているのです。でも不安で、それを確かめたくありません。イエスさまとマルタとの出来事の中で、私たちはそれを見させていただくのです(ルカ10:38-40)。お客様としてイエスさまを迎えてマルタは、その心遣いでバタバタしていました。しかし妹のマリヤは気がづかなかったのか、イエスさまのお話に夢中で聞き入っていました。マルタは思わずイエスさまに、「マリヤに手伝うように言ってください」と言いました。その時イエスさまは、なんとマルタに言われたと思いますか。イエ

スは「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリヤは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」と言われたのでした。あなたはこのイエスさまの言葉を聞いて納得されますか。普通の私たちであれば何か一言あります。しかし今の私たちは違います。いかなる時であってもそばにいてくださるお方がおいでになることを知っています。イエスさまは山上の説教で「何よりもまず、神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えられる」(マ16:33)と言われました。だから私たちはしっかりみ言葉に生きるのです。ソロモンは「慈しみとまことがあなたから離れないようにせよ。それらを首に結び／心の中の板に書き記すがよい」と言います。神さまが、モーセを通してイスラエルの民に命じられたことばを(申命記6:4-9)思い出させられています。大切なことばはどのようにしてでも、私たちはその身から離してはならないのです。そうすれば、見失ったりすることは決してありません。

ソロモンは「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け」と言いました。今日私たちがしっかりと心に留めなければならぬことです。神さまは最上の答えを与えてくださいます。それが私が思っていたことと違ったものであっても、私たちはそれを受け止めて、示された道を歩ませていただく。必ず神さまは祝福をもって顧みてくださいます。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コリントー 12:27-13:13 最高の道

コリントの信徒への手紙を読ませていただきながら、パウロが教会とはどのようなものであるか、彼の思いを聞かせていただきます。そして教会はキリストの体だということを、肝に銘じらさせられるのではありませんか。分派騒ぎが起きている彼らの教会に私たちはキリストにあって一つです。お互いの能力働きは違っていても、キリストがあがめられることが私たちの願いですし、お互いに与えられた賜物は、それを存分に用いさせていただくことができるのが教会ではないか、とパウロは言うのです。

そこでパウロは、「わたしはあなたがたに最高の道を教えます」と言ってこの13章を記しました。教会を建て上げるために、愛という最高の賜物を求めなさいと勧めるのです。この手紙を読ませていただく私たちにとっては、このことも教会の問題なのです。この愛の教えも、個人に対するものというよりも教会形成の視点から読ませていただかねばなりません。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

箴言31:26-31 よき母となるため